文 化 服 装 学 院
2021 年度 自己点検・評価
内部評価委員による報告書

2022 年 12 月

1 教育理念

● 1-1 学校の教育理念

1-1-1 文化服装学院の教育理念、人材育成像

これまで行ってきた文化服装学院の教育に沿った理念との認識に相違は無いが、時代背景や取り巻く環境の変化も踏まえて見直しを行った結果、「共創教育」を意識した授業や教育の実行に繋がった。4つの専門分野の人材育成像などの方針が明記されており、時代に即した本学院の教育理念として、ふさわしい。

● 1-2 課程及び関連科目の教育理念、人材育成像

1-2-1 服飾専門課程の教育理念、人材育成像
1-2-2 ファッション工科専門課程の教育理念、人材育成像
1-2-3 ファッション流通専門課程の教育理念、人材育成像
1-2-4 ファッション工芸専門課程の教育理念、人材育成像
1-2-5 II 部服装科の教育理念、人材育成像／II 部ファッション流通科の教育理念、人材育成像
1-2-6 関連科目の教育理念

学校全体の教育理念の見直しを踏まえ、多様化する業界や時代に即した内容となっており、丁寧な見直しや改善がなされている。検証した結果が反映され、各課程明確な人材育成像となっている。

2 学校運営

● 2-1 法人組織 ／ 2-2 学校組織

導入したシステムや体制の見直しなど課題に進歩は見られるが、効率化されたことなど現状を組織内でどのように情報共有し、理解や実行につなげるか検証が必要である。教育内容の専門性が求められる現在、特に本学院としての教育の質保証のための人材育成や採用を継続していく必要がある。

・教職員の教育レベルの維持、向上のための研修が考えられている。研修内容の検討が必要。
・教育内容の専門性が高まっており、教員補充が難しくなっているが、適切な補充を期待したい。
・現場に即したシステムの導入にあたり、DX や働き方改革を含めた総合的視座で検討が必要。

● 2-3 財務状況

教育機関としての現状把握をしたうえで、学生数や時代の変化に合わせた投資と抑制、削減のバランスを管理し、この点で方針を示していくことが肝要である。有形無形の資産を明確にして活用を進め、財務管理状況を検討していくことが必要。

・人件費の削減は人員補充の抑制だけではなく、各部署で業務内容の見直しを図り、残業の抑制にも努めるべき。
・修学支援制度を積極的に紹介し、4 年制の受験志願者数の増加につながったことは評価できる。
・学生募集目標への活動、取組の工夫と努力が認められる。

・学生数確保と同時に社会情勢の変化に対応した学納金の見直しを検討する必要性を感じる。

● 2-4 法令等の遵守

2-4-1 諸規程の制定、学則、細則、内規等の整備

2-4-2 ハラスメント対策の状況

2-4-3 個人情報の保護

法令の遵守、情報管理に関して対策が進められ教職員の意識は高まっているが、引き続き取組が必要である。特に ICT を進めていく中での注意点や規程の整備を検討し新たな課題に対する対策も必要ではないか。また、ハラスメントに関して研修等、改善の努力をしているが、引き続きリモートハラスメントも含め状況を把握し、新たなガイドラインの作成等対応をしていく必要がある。

・各種規程の整備と検証を引き続き行っていく。

・個人情報保護に関するガイドラインの周知徹底の具体案に期待したい。

・ハラスメントに関しては、パワーハラスメント、アカデミックハラスメントの両ハラスメントについて研修等を実施しながら継続した対策を行っていく必要がある。

・多様化する学生への対応は急務であると考える。

● 2-5 社会貢献等の取組

2-5-1 活動への支援状況

2-5-2 公開講座・教育訓練等

学友会の残布回収など工夫を凝らした活動が行われており、社会貢献への課題も明確になっている。CSR の観点からも学校としての社会課題に対する方針を明確にし、意識浸透や実行に向けて広い視野でとらえ検討していく必要がある。単位付与講座の運営や社会貢献の取組に関する今後の展開に期待したい。

・学友会の残布回収活動の取組はゴミを減らす社会貢献として評価する。今後の展開に期待する。

・生涯学習のオープンカレッジ、通信教育のオンラインを活用したサービスによる受験生の確保と SNS を活用した広報、広告活動は評価できる。

3 教育環境

● 3-1 施設・設備

3-1-1 教室・講義室・実習室・研究室・事務室の整備、使用状況

3-1-2 機材・備品の管理状況

3-1-3 IT 環境の整備・管理状況

教室や実習室等は、本学院の課題においても過去 5 期にわたり取り上げられている恒常的で重要な課題であり、学園全体として、施設・備品の整備や調整にとどまらず有効活用を検討し、資産を活かしていくことが期待される。

・備品については必要なものが厳選されている。

● 3-2 付属機関・施設

3-2-1 教育・学修支援

新型コロナウイルス感染症の対策をしつつも、積極的な学びの場としての取組が工夫され実施されている。

実施された取組に対し結果を検証し記載することで、より具体的な課題が見えてくるのではないか。

・各部署にて、的確に対処されている。

・コロナ禍により学生の利用が制限される中で、新たな取組が行われている。

3-2-2 学生生活支援

本学園において学生の生活をサポートする設備・部署で、コロナ禍の対応や施設の改善など迅速に行われている。新型コロナウイルス感染症対策以外にも学生生活の支援として今後どのように活用していくか検討を進めていく必要がある。

・学生食堂は学生満足度が低い状態にある。コロナ前のように学生満足度が上がるように努力すべき。

・コロナ禍により稼働できない施設もあったが、対策を講じた上での再稼働の動きがみられた。

3-2-3 研究・対外活動

計測調査は長期的視点で業界全体への利益と貢献であり、感染対策をしながら継続が期待される。障がい者衣料や企業との研究開発結果を学生に共有するなど対応ができている。国際ファション産学推進機構では学外のつながりを活かしたセミナーなどの開催がなされている。今後他部署での継続を期待する。

・服装形態機能研究所においては新型コロナウイルス感染症の対策を考えながら対応し、結果を残している。

・国際ファッション産学推進機構では企業と学校を結ぶ役割が果たされている。

4　学修支援

● 4-1 キャリア支援

4-1-1 就職活動支援・就職状況

4-1-2 企業開拓・関係強化

4-1-3 キャリア教育

就職活動支援に関して、従来の対応に加えオンラインを活用した学生支援がなされている。コロナ禍ではあるが、企業開拓など積極的に行い情報収集や就職先確保に努める等の活動も評価できる。就職支援室やキャリア教育担当教員とクラス教員との連携を密にし、さらに就職活動へのサポートが強化され活動率や内定率の向上につなげていくことに期待する。

・下級生からの就職活動強化の取組は就職率向上のための重要課題と考え評価できる。

・コロナ禍にあって、就職率が向上したことは評価できる。

・企業の選考方法変更に伴いオンライン対応ブースを確保し対応できていた。

・求人情報配信方法の変更、Instagram・twitter の配信、卒業年次生への電話・メールでの進路確認等、様々な取組により就職率アップにつなげた。

・下級年次生へ早期からの活動を促し、外国人留学生へのきめ細かな対応等についても支援を継続している。
・より多くの学生に、どのように活用させるかが今後重要。

● 4-2 資格取得支援

4-2-1 資格取得率・状況

試験実施に関する運営の課題など明確になっている。資格取得や合格率向上に向けた取組は行っているが、取得のメリットを明確にすることや業界への周知など課題が残る。

・検定試験の取得による学習効果、技術の向上、受験の意義と資格取得のメリットが今後の課題。
・各種試験の課題について、取組がなされている。
・資格取得の意義を学生だけでなく業界へも周知すべく協会と共に努めていく必要がある。

● 4-3 学生相談体制

課題に対して誠実に取り組み、オンライン相談や電話対応など柔軟な対応がなされており、学生にとっても相談しやすい環境である。障がい学生の卒業後の自立支援に向けた足掛かり構築は評価できる。

・就職支援室と連携して、進路に必要な情報の提供、学生が具体的に活動出来るようなサポート体制が考えられていて機能している。
・学生の多様化した相談にも対応できるよう、取り組まれている。
・文化服装学院の教育方法に即した対応を行っており、評価できる。

● 4-4 経済支援・健康管理

4-4-1 奨学金

4-4-2 健康診断

学生が健全な学校生活を送ることができるよう、経済面、健康面において支援が整えられている。奨学金に関して、周知に力を入れるなど迅速かつ適切な対応がなされている。健康診断に関しては、コロナ禍の対応がなされている。

・学生、保護者への奨学金制度の理解し易い資料の提供と説明、サポートが考えられている。
・貸与ではなく贈与の奨学金制度をもっと増やす必要がある。

● 4-5 卒業生・社会人への支援

4-5-1 すみれ会（卒業生の会）

4-5-2 再就職・起業支援

卒業生紹介『LINKS』や特別講義などつながりを活かした取組がみられる。理念の改訂によりつながりを大切にし、学校としてできる卒業生支援や再就職・起業支援などどのようなコミュニケーションができるのか検討していく必要がある。また、すみれ会との更なる連携にも期待したい。

・すみれ会の組織や活動の活性化に期待する。
・卒業生支援や再就職、起業支援など更なる支援の充実が必要。
・奨学金の給付やオンライン講演会などが行われているが、会の活性化には組織強化が必要だと感じる。

5　教育活動

● 5-1 学校のカリキュラム編成

5-1-1 文化服装学院のカリキュラム編成状況

アパレル業界動向や社会背景などを適切に見極めたカリキュラムであり、取組・評価が適切に行われている。非常勤講師との連携や学内教員の研究や研修を行い実践的なカリキュラムの充実がなされている。

・現在の当学院のカリキュラムが、アパレル業界へ対応しきれていない部分もあると思う。引き続き精査する必要があると考える

・定期的なカリキュラムの見直しを制度化することで、常に時代に即したカリキュラムの構築に努めている。

● 5-2 課程のカリキュラム編成、授業研究

5-2-1 服飾専門課程のカリキュラム編成状況、授業研究

特徴に合ったカリキュラムや授業内容の整備が行われている。つながりを意識したカリキュラム編成に努めている。特に個々の学びに合わせた工夫や、コラボレーション、コンテスト活動など積極的に取り組んでいる点が評価できる。

・検定、コラボレーション、コンテストなどの取組が積極的に授業に組み込まれている。

・各課の特色を考慮し、カリキュラムの見直しに努めている。

・科の特徴を考えた取組がなされており、よい結果が出ている

5-2-2 ファッション工科専門課程のカリキュラム編成状況、授業研究

各科の特徴や人材育成像に合わせたコラボレーションや就職につながる対応がなされており、学生の意欲向上につながっている。また効率的な授業や学生のレベルや進度に合わせた工夫も見られ教育効果をあげている。

・課程及びそれぞれの科の課題に沿い柔軟な取組がなされている。

・オンライン、対面授業を組み合わせる授業展開が考えられている。

・各課の特色を考慮し、カリキュラムの見直しに努めている。

5-2-3 ファッション流通専門課程のカリキュラム編成状況、授業研究

業界の動向や社会的な背景に合わせて柔軟にカリキュラム編成や新規コースの設立が行われている。特に外部との協業が盛んにおこなわれ、教育効果をあげている

・専門的な知識や技術を業界から積極的に取り入れたカリキュラム編成が出来ている。

・就職率向上のための取組が考えられている。

・各課の特色を考慮し、カリキュラムの見直しに努めている。

5-2-4 ファッション工芸専門課程のカリキュラム編成状況、授業内容

それぞれの科が課題に対し真摯に取り組んでおり、授業の充実につなげている。実務につながる教育としてコラボレーションの機会を多く持ち、インプットだけでなくアウトプットの授業が行われており社会に対し価値を創造する学びになっている。

・目標とする人材像に対応したカリキュラムの見直し、授業内容の改善がされている。

・コラボレーションやコンテストの取組が積極的に行われている。

・各課の特色を考慮し、実務につながる学びの見直しに努めている。

5-2-5-1）II 部服装科のカリキュラム編成状況、授業研究
5-2-5-2）II 部ファッション流通科のカリキュラム編成状況、授業研究
対面、オンデマンド、オンラインの活用を効果的に行い、学生の理解向上につなげている。個々のレベルや就職につながる対応がなされており、就職に関しても個別対応など就職内定への適切な取組が評価できる。
・前年の結果を検証し、授業内容の見直しが行われている・
・課題に対する取組による向上に期待する。
・II 部という限られた時間の中で、効果的に学ぶための改善がみられる。
5-2-6 関連科目の授業研究
コロナ禍の授業体制に合わせ、柔軟に授業内容を調整し、構築された資料の活用や検証がなされ、効果的な対応が工夫されている。サスティナブルや多様性など時代に即した内容を取り入れていることが評価できる。
・関連科目ごとに授業内容が構築されており、カリキュラムの改善に取り組んでいる。
・オンライン授業、対面授業、ハイブリット授業のメリット、デメリットの見極めと、それぞれの良さを生かした授業の構築が考えられている。

● 5-3 学外授業
5-3-1 学外実習の状況
5-3-2 インターンシップの状況
5-3-3 海外研修の状況
5-3-4 コラボレーションの状況
5-3-5 コンテスト活動の状況
つながりを活かした学外との協業が多くみられる。卒業生とのつながりを強みとし、インターンシップ先の開拓や時代の変化に対応した実務教育に関してさらに強化していけるとよい。コロナ禍など非常時を想定した研修旅行や代替研修が行われ学習効果もあり評価できる。
・コミュニケーションキャンプ、研修旅行などの対応は非常時を想定した研修旅行や代替研修が行われ学習効果もあり評価できる。
・企業研究、早期就職選考に結び付くインターンシップへの学生の自発的な取組は評価できる。
・コロナ禍の中、安全を最優先としつつ、出来得る諸活動に取り組んでいる。

● 5-4 学校行事
5-4-1 行事の状況
コロナ禍での様々な対応がなされているが、本学院らしいイベントの実施が求められる。代替として実施できたことは良いが、教育効果がどうであったかの検証が必要である。学生のニーズが満たせる方法を探りたい。
・本学院らしいイベントの実施が不十分であった
・コロナ禍でのイベント開催の努力は評価できるが、学生の満足度は高いとは言えない。
・コロナ禍ではあったが安全を最優先としつつも代替として様々な工夫により開催出来たことは評価できる。

・最大の行事である文化祭は本格開催には至らなかったものの、オンライン併用によるショーの実施などの取組が見られた。

● 5-5 課外活動

5-5-1 学友会（在校生の会）

授業以外の学生の学びや経験の場として、コロナ禍でもできることを模索し実施することができた。その中でも今の学生に合わせて SNS を活用したことや、サスティナブル活動が実施できたことは評価できる。

・コロナ禍による制限がある中で、安全な学生活動への対処ができている。
・制限がある中、残布の回収など、時代のニーズに対応した企画が行われる等の工夫がみられた。
・更なる社会貢献や企業との取組による活動の活性化に期待する。

● 5-6 教育・成績評価

新型コロナウイルス感染症対策としての対応がなされ、安全を考慮した試験などが行われた結果、大きな混乱もなく実施できている。教育効果や、適切な評価ができたかどうか、検証が必要。

・新型コロナウイルス感染症対策に対応した試験実施は評価する。
・成績登録などのデジタル化に伴い、セキュリティ強化の取組が必要。

● 5-7 退学者への対策

学生対応を丁寧に行ったことは評価できる。退学理由など現状把握は行われているが、対策に至っていない点もある。早期対応が求められる。

・２年間のコロナ禍でのオンライン併用の体制から対面授業中心になることによる学生の状況の把握や退学者の分析と対応策の検討も必要である。
・退学者の問題は長年の課題であり、今後も退学者減少にさらに努める必要がある。
・2021 年度は健康上の理由による退学者が漸増した。アドバイスには専門知識も必要であり、2022 年度の動向に注視が必要である。

● 5-8 学生募集

5-8-1 学生募集の状況

5-8-2 広報活動

入学試験の Web 出願の対応がなされ、業務効率化が図られている。入学希望者に合わせた広報として、SNS を駆使し施策が講じられており、フォロワー数の増加からも広報の結果が見られる。

・広報の新しい取組として入学試験の Web 出願のシステムの稼働により業務効率化が図られている。
・SNS を利用して入学試験の施策が考えられている。
・文部科学省高等教育修学支援制度の職員への周知と募集活動への取組ができている。
・学校独自の地方相談会など新しい取組は評価できる。

● 5-9 国際交流

5-9-1 留学生の受け入れ状況

5-9-2 合作校・提携校の状況

5-9-3 外部団体・機関との連携

東京出入国在留管理局留学審査部門より「適正校」の審査を受け法令に基づき対応がなされている。外部団体提携校との取組もノウハウの蓄積により細やかな対応がなされている。コロナ禍においてもオンラインの活用をし、セミナーやコラボレーションが実施できたことが評価できる。

・オンラインの活用は出来たが、対面でのセミナーやコラボレーションは不十分であった。
・オンライン授業により、来日出来ない学生にも日本と同じ授業を提供できたことを評価する。
・コロナ禍により、留学生の来日や活動は大幅に制限されたが、オンライン等を活用し出来得る対処を行っている。
・来日できない合作校に対して適切な配慮ができている。

自己点検・評価委員会 内部評価会議
内部評価委員（敬称略・順不同）
相原 幸子
門井 緑、早渕　千加子、野原 美香、宮原 勝一、朝日 真
渡井 邦重、小林　克也、吉田　和代
以上